

# 震災メモリアル公園市民シンポジウム概要



日 時：平成27年8月28日（金）

15:00~18:00

場 所：名取市文化会館中ホール

入場者：約180名

出演者：講師2名、  
関係団体9団体

## 1. 第一部 基調講演

### (1)東日本大震災の復興祈念公園及び国営追悼・祈念施設(仮称)

講師：国土交通省東北地方整備局 東北国営公園事務所 所長 脇坂 隆一 氏

(主な説明内容)

- ・国営追悼・祈念施設の基本理念や基本計画について説明。  
(説明事例：陸前高田市高田松原地区、石巻市南浜地区)

### (2)都市復興におけるメモリアル空間の形成と街の再生ー記録・記憶・再生ー

講師：東北大学災害科学国際研究所 国際防災戦略研究室 教授 村尾 修 氏

(主な説明内容)

- ・都市復興の意義、メモリアル空間の事例、街の再生事例について説明。

## 2. 第二部 パネルディスカッション

### (1)関係団体代表者によるパネルディスカッション

コーディネーター：東北大学災害科学国際研究所 国際防災戦略研究室 教授 村尾 修氏

#### 【テーマ① 震災メモリアル公園はどのような空間にすべきか】

関係団体： 関上復興だより 格井 直光 氏  
認定NPO 法人地球のステージ 丹野 祐子 氏  
関上中学校 PTA 会長 阿部 勝弥 氏  
関上小学校 PTA 会長 丹野 健一 氏

(主な発言内容等)

- ・追悼、鎮魂、祈りの場所、おごそかな場所として整備してほしい。
- ・被災状況や震災の教訓などを後世へ伝え、防災教育を行える場所にしてほしい。

- ・震災前の生活の痕跡や、街の面影を感じ取れる空間にしてほしい。
- ・震災メモリアルという点では、津波に耐えた閑上小学校のちびっこ丸の取扱いについて、議論を行っていきたい。
- ・閑上という名称、漢字は、他に例はない。門に水ということで、水を生かしたまちづくりに取り組んでほしい。
- ・他地域と比べ、閑上地区の住民は地元への愛着が強い。元の住民が気軽に立ち寄り、被災経験を伝承できる公園にしてほしい。
- ・観光バスが一日に何台もくるような公園にしてほしくない。誰かのためでなく、自分たちの公園であってほしいという思いがある。
- ・公園を作って終わりではなく、その後の維持管理を考慮に入れ取り組んでもらいたい。
- ・賑やかな場というよりも、多くの方々が追悼に訪れる空間になればと思う。
- ・公園内に高台の避難場所は不要である。真っ先に逃げるのが重要。そのためにも、避難道路、防災行政無線などを整備してもらいたい。
- ・震災の記憶が薄れないように、語り継いでいくことが大切。防災を学べる空間、語り継ぐ空間として公園を整備してもらいたい。
- ・防災、減災の学習の場は、今後整備予定の閑上消防出張所に機能を持たせることも一考である。高層にして、屋上から海が見えるようにし、併せて防災、減災を考える施設となれば良いと考える。

## 【テーマ② 沿岸地域の交流人口拡大のために有効な取組は】

関係団体： NPO 法人名取ハマボウフウの会 今野 義正 氏  
 ゆりあげ港朝市協同組合 櫻井 広行 氏  
 閑上地区まちづくり協議会 針生 勉 氏  
 名取産業再生を考える会 佐藤 智明 氏  
 名取市商工会青年部閑上支部 佐々木 市哉 氏

(主な発言内容等)

- ・閑上ビーチ、サイクルスポーツセンターなど、海に関わる施設の整備が必要。
- ・来訪者が安心して閑上に来れるよう、避難施設を整備してもらいたい。また、犠牲者を出さないよう、きちんとした防災教育や、避難誘導を徹底してもらいたい。
- ・仙台に近いという立地条件を生かし、土地の有効活用や企業誘致の優遇などを検討すべきと思う。
- ・震災前は、朝市、ビーチ、プール、サイクルスポーツセンター、花火、地引網など、観光資源が多くあった。閑上は水辺の街であり、遊べる街として、若い世代を呼び込むような工夫が必要と思う。
- ・平成 30 年に小中一貫校が開校するが、学校教育と連動したまちづくりを行い、魅力ある街であることをPRできれば、若い世代の住民も増えるのではないかと

と考えている。未来に向けて発展するようにしたい。

- 震災メモリアル公園の建設は、閑上のまちづくりの一環である。水産加工団地建設、新たな魚種の水揚げなど、産業の再生などを行うことにより、閑上の人々が働ける場もできる。色々な人に情報を発信していくべきと思う。かわまちづくりの計画もあり、名取川沿いは、川や海が見える場所として整備することが街の魅力につながっていくと考える。復旧ではなく、復興を視野に閑上の交流人口拡大施策に取り組んでいてもらいたい。
- 元の住民の方、新たに住民となる方が触れ合うことによって街が発展すると考える。外部の事業者の誘致を行い、朝市と連携し、相乗効果により発展していくような仕掛けを検討すべきと思う。
- 事業者の協力を得て、工場、作業所は、来た人が見て、学べる施設とし、観光を意識したまちづくりを進めてもらいたい。
- 閑上を、人々が来やすく、住みやすい場所にするためには、商店街の活性化が重要である。大型店にはできない御用聞き、宅配などのサービスを行い、商店街と住人が一体となって、家族化するような街にしていってはどうか。商店街の若い人を集めて、年寄りの家を巡回し声掛けをするなど、強固なコミュニティづくりも必要と考える。人と人とのコミュニケーションづくりが、街を成熟させていく上で重要である。
- 外から商店などに来た人が安心できるよう、防災関係の施設の整備が必要。年寄りには避難に時間がかかるので配慮が必要である。駐車場を避難タワーを意識して整備するなど、安全・安心のまちづくりを進めてもらいたい。
- 人口を増やすため、24時間営業の託児所や保育所を閑上につくるのが有効ではないか。
- 現在、仙台空港に降りた方々の動向は、アクセス鉄道を利用し、仙台のほうへ行ってしまう。その人たちを呼び込むため、水陸両用バスを導入し、空港から貞山運河を走らせ、閑上を経由し、塩釜、松島、石巻への新たな観光ルートを整備することが有効と考えている。
- 海の街として考えた場合、閑上ビーチでの海水浴をイメージするが、夏場だけである。釣りの場合は、季節は関係ないので、漁礁をもっと広く整備すれば、冬場でも釣り人が訪れるようになると思う。
- 震災メモリアル公園、水辺、水産資源などをもっと活用できれば、人が増えるのではないかと考えている。閑上ならではのもの、自慢できるものがあれば、住みたいと思えるようになる。震災メモリアル公園の中で発信ができるようにしてほしい。
- 震災メモリアル公園は、震災の教訓を伝え、防災を学べる場にしてもらいたい。